

ヘブル人への手紙

ヘブル人とはユダヤ人のことです。ユダヤ人は神殿をとっても重要なものと考えていました。ですから、そこではいつも、いろいろな宗教儀式が行なわれ、事あるごとに動物の犠牲がささげられていました。たとい、クリスチャンになっても、神殿での儀式を熱心を守る習慣は変わりませんでした。このようなユダヤ人に、ほんとうにたいせつなのは、儀式を守るのではなく、身代わりとなって死んでくださったキリストを信じることだと、この手紙は教えています。

一

1 ずっと昔、神様は、幻や夢や、時には直接の語りかけなどの、いろいろな方法で、預言者を通して先祖たちに、ご自分の計画を少しずつ明らかになさいました。

2 しかし今の時代には、ご自分のひとり息子を通して語っておられます。神様はその子にすべてを受け継がせ、彼によって、世界とその中のすべてのものをお造りになったのです。

3 神の子は、神様の栄光を受けて、まばゆいばかりに輝いています。また、その人格と行動すべてにおいて、神であることを示し、力あることばによって、宇宙を統御しておられます。そればかりか、私たちのいっさいの罪の記録を消し去ってきよめるために、死んでくださいました。そして今は、最高の栄誉を受けて、天におられる偉大な神様のそばに、座っておられるのです。

4 こうしてこの方は、御使いより、はるかにすぐれた存在となりました。それは、父なる神がおつけになった「神の子」という名が、御使いたちの名や肩書きとは比べ物にならないほど、すぐれていたからです。5 神様はどの御使いに対しても、「あなたはわたしの子だ。今日あなたに、その名にふさわしい栄誉を与えた」などと言われたことはありません。しかし、イエス様に対しては、そう言われたのです。さらに、「わたしは彼の父であり、彼はわたしの子である」と宣言されました。6 それから、長子であるイエス様を地上に送る時、「御使いはみな、彼を拝め」と言われました。

7 御使いたちについて、神様は、「風のように速い使者、燃える炎のような力を持つしもべ」と紹介しておられます。8 しかし、神の子については、全く違います。

「神よ。

あなたの国は永遠に続く。

その支配は、いつも公平で正しい。

9 あなたは正義を愛し、悪を憎む。

それであなたの神は、

ほかのだれよりも多く、

あなたに喜びを注がれた。」

10 そればかりか、神の子を「主」と呼んで、こう言われました。

を見てはいません。 9しかし、しばらくの間、御使いよりも低くされ、私たちのために死の苦しみを味わうことにより、今は栄光と誉れの冠を授けられた、イエス様を見ています。 まことに、イエス様は、神様の大きい恵みのゆえに、全人類のために死なれたのです。 10栄光を現わすために、すべてのものをお造りになった神様が、ご自分を信じる者たちを天まで引き上げるため、イエス様を苦しみに会わせたのは、まことに正しいことでした。 この苦しみをくぐり抜けて、イエス様は人々を救いに導くにふさわしい、完全な指導者となられたのです。

11イエス様によってきよめられた私たちは、今では、イエス様と同じ父を持っています。 だからこそ、イエス様は、私たちを兄弟と呼ぶのを、恥とはされないのです。 12イエス様は、旧約聖書の詩篇の中で、こうっておられます。 「わたしは、父なる神のことを、兄弟たちに語ろう。 そして、声を合わせて神を賛美しよう。」 13また別の個所で、「兄弟たちと共に、神を信じよう」と言い、さらに「さあ、わたしはここにいる。 神が与えてくださった子供たちといっしょに」と述べておられます。

14神様の子供である私たちは、血も肉もある人間です。 そこでイエス様も、血肉を持った人間の姿でお生まれになりました。 それは、人間として死ぬことにより、死の権力をふるう悪魔の力を打ち砕くためです。 15これだけが、死を恐れて、一生涯、恐怖の奴隷となっている人々を、救い出す方法だったのです。

16私たちはみな、イエス様が、御使いとしてではなく、一人の人間、一人のユダヤ人として来られたことを知っています。 17イエス様には、あらゆる点で、兄弟である私たちと同じになることが、どうしても必要だったのです。 そうしてはじめて、イエス様は、私たちにとってはあわれみ深く、神様にとっては忠実な大祭司として、私たちの罪を取り除くことができたのです。 18自ら、試練と非常な苦しみを体験された主イエス様は、試練にあえいでいる私たちの苦しみをよく理解して、実にみごとに助けてくださるのです。

三

1そういうわけですから、神様の手で、天国の市民として選び出された、愛する皆さん。 お願いします。 どうか、神の使者であり、私たちの信仰の大祭司であるイエス様に、目をとめてください。

2神の家で忠実に奉仕したモーセ同様、イエス様も、自分を大祭司に任命された神様に忠実な方です。 3しかしイエス様は、モーセより、はるかにまさった栄光を、お受けになりました。 豪華な家よりも、その家を建てる人のほうが賞賛されるのと同じです。 4家を建てることのできる人は大ぜいいますが、すべてのものを造られたのは、神様です。 5確かにモーセは、神の家のために、賞賛に値する仕事をしました。 しかし彼は、単なる神の召使にすぎません。 モーセの果たした主要な役割は、後に起こることを暗示することでした。 6しかしキリスト様は、神様の忠実な息子として、神の家のいっさいの管理を任されました。 もし私たちが、最後まで、揺るがぬ確信を持ち続け、喜びと主への

信頼を失わなければ、その神の家となれるのです。そして神様が、そこに住んでくださるのです。

78 ですから、聖霊様はこう警告します。キリスト様の声に注意深く耳を傾けなさい。今日その声を聞いたなら、昔のイスラエル人のように、心を閉ざしてはいけません。彼らは荒野で試練を与えられた時、神様の愛にそむき、心を鋼鉄のように堅くして、文句を言い続けたのです。9 彼らは神様が忍耐強いので図にのり、何度も何度も反抗しましたが、四十年の間、神様はそれを忍び通されました。そればかりか、彼らの目の前で驚くべき奇蹟を行ない続けられました。10 しかし、とうとう神様が、こう宣言される時が来たのです。「わたしの怒りは極に達した。彼らはわたしに心を向けたことがなく、いつもほかを見ていた。そんな彼らに、わたしの用意した道が見いだせるはずがない。」

11 神様は怒り、決して人々を休息の地に導かないと、誓いを立てられたのです。

12 愛する皆さん。心が悪に染まり、不信仰にこりかたまって、生ける神様から離れることがないように、自分の心を見張りなさい。13 まだ時間があるうちに、日々、互いにこのことを確かめ合いなさい。そうすれば、一人も罪の魅力に惑わされて、神様に心を閉ざす人が出ないでしょう。14 もし私たちが、初めてキリスト様を信じた時と同じ気持ちで、神様に信頼し、最後まで忠実であれば、キリスト様にあるいっさいの祝福を、受けることができるのです。

15 ですから、今この時が、かんじんなのです。次の警告を、かた時も忘れてはなりません。「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたなら、荒野で反抗したイスラエル人のように、心をかたくなにしていけない。」

16 神様の声を聞きながら、逆らった人たちとは、いったいだれでしょう。指導者モーセに率いられて、エジプトを脱出した人たちです。17 四十年もの間、終始神様の怒りを買ったのは、いったいだれでしたか。罪のために荒野で死に果てた、あのイスラエル人ではありませんか。18 神様が誓って、約束の地に入らせないと断言されたのは、だれに対してでしたか。従うことを拒んだ、あの人たち全員に対してです。19 約束の地に入れなかったのは、神様に信頼しなかったからです。

四

1 とはいえ、だれでも、神様の用意された休息の地に入れるという約束は、今でも有効です。ですから、あなたがたの中で、万一にも入りそこなう者が出ないように、警戒しようではありませんか。2 なぜなら、モーセの時代の人たちと同様、私たちにも、救いをもたらす、すばらしい知らせが伝えられているからです。ところが、モーセの時代の人たちには、この知らせは何の役にも立ちませんでした。彼らは聞いても信じなかったからです。3 休息の地に入れるのは、神様を信じる私たちだけです。世の初めから、受け入れ態勢を整えて待っておられた神様は、「わたしは怒って誓う。わたしを信じない者を決して入らせない」とも宣言されたのです。

4 私たちは、神様が準備万端ととのえて、待っておられることを知っています。神様は

創造の七日目に、計画どおりにすべてをなし終えて休まれた、と書いてあるからです。

5にもかかわらず、彼らは閉め出されてしまいました。神様がついに、「彼らを決してわたしの休息に入れない」と言われたからです。6しかし、休息の地への約束はまだ有効であり、中には、そこに入ることが許されている人もいます。それは、不従順のため、最初に与えられた機会を失った人たちではありません。

7しかし神様は、新しい機会を与えてくださいました。それが今なのです。最初の人たちの失敗の後、長い年月が過ぎたころ、神様はダビデ王を通して、このことを知らせてくださいました。すでに引用したように、「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたら、心をかたくなにしていけない」と。

8ここでの新しい休息の地とは、ヨシュアに率いられて入った、パレスチナの地ではありません。もしそうなら、ずっとあとになって、今日がそこに入る時だ、などと言われるはずがないからです。9そういうわけで、完全な休息が、今なお、神様を信じる人たちを待ち受けているのです。10キリスト様は、もうすでに、そこにお入りになりました。神様が創造の働きを終えて休まれたように、キリスト様も、任務を果たして、今はゆっくり休んでおられるのです。11ですから私たちも、この休息の地に入れるように、最善を尽くしましょう。イスラエルの人たちが、神様に不従順であったために、入りそこねたことを肝に銘じて、くれぐれも注意しようではありませんか。

12神様のことは生きていて、力にあふれています。それは、鋭い刃物みたいに切れ味がよく、心の奥深くに潜んでいる思いや欲望にまでメスを入れ、私たちの赤裸々な姿をさらけ出します。13神様はすべての人の心を、その人がどこにしようと、探り知るお方です。神様に造られたもので、その目から隠れおおせるものは、一つもありません。今も生きて、すべてを見抜かれる神様の前に、裸のままさらけ出されているのです。私たちはこの方に対して、自分のした、いっさいのことを、弁明しなければなりません。

14しかし、私たちを助けるために、天にのぼられた偉大な大祭司、神の子イエス様が味方です。ですから、イエス様への信仰を、決して失うことがありませんように。15この大祭司は、私たちと同じ試練に会われたので、人間の弱さをよく知っておられます。しかしただの一度も、誘惑に負けて罪を犯したことはありません。16ですから、躊躇せず、思いきって、神の王座に近づいてあわれみを請い、必要な時に必ず与えられる恵みを、いただくではありませんか。

五

1 - 3ユダヤの大祭司は、人々の代表として、いろいろな供え物をささげ、神様に仕えます。しかし、大祭司といえども同じ人間なので、人々のためだけでなく、自分の罪が取り除かれるためにも、いけにえの動物の血をささげます。また、彼も人間なので、愚かで無知な人人を、やさしくいたわることができます。彼自身も同じ試練にさらされているので、他の人々の問題をわが事のように理解し、同情できるのです。

4もう一つ大祭司について言えるのは、自分の意志では大祭司になれないということです。

アロンが選ばれた時のように、大祭司となる者は、神様から直接、その務めに任命される必要があります。

5 キリスト様も、名誉ある大祭司の地位につかれましたが、自分の意志で、そうなさったわけではありません。神様がお選びになったのです。神様はこの方に、「わが子よ。今日、わたしはあなたに栄誉を授けた」と言われました。6 またさらに、「あなたは、メルキゼデクと同じ位にある、永遠の祭司に選ばれた」と告げました。

7 キリスト様はこの地上におられた時、神様に願い、死から救いうるただ一人の方に、たましいのうめきと涙とをもって祈られました。この祈りは、どんな場合にも神様に従おうとする、キリスト様の切なる願いのゆえに、聞き入れられたのです。

8 イエス様は神の子であられたのに、神様に従うことには多くの苦しみが伴うことを、身をもって学びました。9 この体験を通して、ご自分の完全さを実証し、その上で、ご自分に従うすべての人に永遠の救いを与える者となられたのです。10 ここで、神がキリスト様を、メルキゼデクと同じ位に立つ大祭司としてお選びになったことを、思い起こしなさい。

11 このことについては、まだまだ話し足りません。しかし、聞く意志がないあなたがたに、理解してもらうのはむりです。

12 13 あなたがたは、もう長い間、クリスチャンとして生きてきました。もうほかの人を教えても当然なのに、もう一度、神様のことばのイロハから手ほどきしてもらわなければならないほど、だめになっています。まるで、固形物を食べるまでには成長していないので、いつもミルクばかり飲んでいる赤ん坊みたいです。クリスチャン生活のごく初歩のところを行きつ戻りつして、善悪の区別さえ、おぼつかない状態なのです。要するに、まだ赤ん坊のクリスチャンです。14 あなたがたがもっと成長し、正しい行ないをすることによって、善悪の区別がつくようになるまでは、堅い霊の食べ物を食べることも、神様のことばの深い意味を悟ることも、むりでしょう。

六

1 ですから、基督教の初歩の教えをいつまでも卒業できずに、堂々巡りをするのはやめましょう。むしろ、もっと理解力を高め、さらにすぐれた教えを目指して進みましょう。善行によって救われようとするまちがいや、神様を信じる信仰の必要性などを、これ以上聞くには及びません。2 バプテスマ（洗礼）、聖霊様を受けること、死人の復活、永遠のさばきについても、これ以上教えられる必要はありません。

3 主のお許しがあれば、次の段階に進もうではありませんか。

4 - 6 あなたがたが、いったん、神様の良い知らせを理解し、天からの恵みを味わい、聖霊様をいただく特権を与えられ、また、神様のことばのすばらしさを知り、未来の世界の超自然的力をはだで感じ取ったとします。しかし、それでもなお、神様に背を向けたら、もう一度、主に立ち返ることはできません。キリスト様を拒絶することは、神様のひとり息子をもう一度十字架につけ、人前でさらしものにするからです。そ

んな人は、もはや悔い改めようにも、改めようがありません。

7十分に雨を吸い込んでよく潤った畑が、農夫に大豊作をもたらしたとしたら、その畑は、神様の祝福をむだにしなかったことになります。 8しかし、いばらやあざみばかりを生えさせるなら、その畑は役立たずとして、焼き払われてしまいます。

9愛する皆さん。 とはいえ、すべてが、あなたがたに当てはまるわけではないでしょう。 私は、あなたがたが救いにふさわしい実を結んでいるものと、確信しています。 10神様は、決して不公平な方ではありません。 あなたがたが、神様のために熱心に働いてきたことや、クリスチャンの同胞に、ずっと援助の手を差し伸べてきた愛を、決してお忘れにはなりません。 11そこで私たちは、あなたがたがこの世にあるかぎり、いつも人を愛し続けて、十分な報いを受けることができるようにと、ひたすら願っています。

12前途に希望をいただいているかぎり、クリスチャンであることに飽き飽きしたり、信仰生活が怠惰に流れたり、無関心に陥ったりすることはありません。 かえって、強い信仰を持ち、忍耐し続けることによって、神様の約束なさったものを余すところなく受けた人たちの模範に、なろう者となるでしょう。

13アブラハムに与えられた約束を思い出しなさい。 神様は、自分以上にすぐれた存在はありえないので、自分の名を指して誓われました。 14すなわち、幾度もアブラハムを祝福し、子供を与え、偉大な国民の父とする、と言われたのです。 15そこでアブラハムは、その約束を忍耐して待ち望み、ついに約束どおり、息子のイサクを授かりました。

16人は何かを約束した場合、それを必ず実行する意志と、万一破った時には、どんな罰にも甘んじる覚悟を示すために、自分よりもすぐれた者の名にかけて誓います。 いったん誓ってしまえば、もうだれも、とやかく言うことはできません。 17そういうわけで、神様からの助けを約束された人たちが、その約束の絶対的な確かさを知り、その計画の変更を気づかう必要がないように、神様も誓いによって約束の確かさを保証されたのです。

18神様は、約束と誓いの両方を与えてくださいました。 この二つは、全面的に信頼できます。 神様はうそをつかないからです。 そのため、救いを求めて神様のもとに逃れて来る人たちは、確かな保証をいただいて、新たな勇気を奮い起こすことができます。 そして、神様の救いの約束を、少しの疑いもなく確信できるのです。

19必ず救われるという確かな望みは、私たちのたましいにとって、信頼できる不動の錨です。 そして、この望みこそ、私たちを、天の神聖な幕の内側におられる神様と結び合わせるものなのです。 20キリスト様はすでに幕の内側に入られました。 そこで、メルキゼデクの位を持つ名誉ある大祭司として、私たちのために、とりなしていただくのです。

七

1メルキゼデクは、サレムの町の王で、すぐれて高い神様の祭司でした。 アブラハムが多くの王たちとの戦いに勝って凱旋した時、メルキゼデクは出迎えて祝福しました。 2その時アブラハムは、戦利品の十分の一をメルキゼデクに差し出しました。

メルキゼデクという名前の意味は「正義」であり、サレムという町の名は「平和」を意味していました。ですから、彼は正義の王であり、平和の王です。 3メルキゼデクには父も母もなく、先祖の記録也没有ありません。 また誕生も死もなく、そのいのちは、神の子のいのちに似ています。 それゆえ、彼は永遠に祭司なのです。

4メルキゼデクがどんなに偉大な人物であるか、考えてみましょう。

神様がお選びになった人の中で、最も尊敬されていたアブラハムでさえ、メルキゼデクには、王たちからの戦利品の十分の一を与えました。 5メルキゼデクがユダヤ人の祭司であったなら、確かにアブラハムのこの行為も、うなずけます。 というのは、後に、神様の民は、血のつながった親族である祭司のために献金することを、おきてによって義務づけられたからです。 6ところが、メルキゼデクはアブラハムの親族ではなかったのです。しかし、アブラハムは彼に献金しました。

メルキゼデクもまた、偉大なアブラハムを祝福しました。 7言うまでもなく、祝福を与える人は祝福を受ける人よりも、常に偉大なはずです。

8また、ユダヤ人の祭司たちは、やがては死ぬべき人間であるにもかかわらず、一般から十分の一のささげ物を受けましたが、メルキゼデクは、永遠に生きている、とされています。

9さらに、十分の一を受けるユダヤ人祭司の先祖であるレビ自身も、アブラハムを通してメルキゼデクに十分の一をささげたと言って差しつかえないでしょう。 10レビは、まだ生まれてはいませんでした。メルキゼデクに十分の一をささげた、アブラハムの直系の子孫だからです。

11もしユダヤ人の祭司とおきてに、私たちに救う力があるとしたら、なぜ神様は、あえてアロンの位に等しい祭司〔ユダヤ人の祭司はすべてアロンの位を受け継いでいる〕ではなく、メルキゼデクの位に等しい祭司である、キリスト様をお立てになったのでしょうか。

12 - 14新しい系統の祭司が立てられる時、それを受け入れるために、神様のおきても改められなければなりません。 キリスト様がレビ族とは全く無関係の、しかも、モーセが祭司として任命したこともない、ユダ族から出られたことは、周知の事実です。 15そういうわけで、私たちは、これまでの神様の秩序に大きな変更があったことを、認めざるをえません。 キリスト様が、メルキゼデクの位に等しい、新しい大祭司として立てられたからです。 16この新しい大祭司は、古いおきてに属するレビ族からではなく、尽きることのない、いのちからほとばしる力を基として、立てられたのです。 17旧約聖書の詩篇の作者は、はっきりキリスト様を指して、「あなたは、永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司です」と証言しています。

18家系を重んじる古い祭司職の制度は、廃止されました。 それは人々を救う力のない無益な制度でした。 19だれも、神様との正しい関係を結べなかったのです。 しかし、今は違います。 私たちは、もっとすぐれた希望を与えられています。 キリスト様のおかげで神様に受け入れられた私たちは、神様に近づくことができるからです。

20 神様は誓いをもって、キリスト様を永遠の大祭司としてお立てになりました。 21 かつて祭司たちをお立てになるのに、そんな誓いをされたことは、一度もありません。しかしキリスト様に対してだけは、次のように誓われたのです。「主は、いったん立てた誓いを変えることは決してない。あなたは、永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司である。」 22 この誓いのゆえに、キリスト様は、新しいすぐれた約束の確かさを、いつまでも保証してくださるのです。

23 古い契約のもとでは、大ぜいの祭司が必要でした。祭司が年老いて死ぬと、跡継ぎを立てて、祭司制度を絶やさないようにしたのです。

24 しかし、イエス様は不滅のお方なので、いつまでも祭司であられます。 25 また、ご自分を通して神様のもとに来る人々を、一人残らず、完全に救うことができになります。永遠に生きておられるイエス様は、いつも神様のそばで、ご自分の血によって彼らの罪が帳消しになっていることを、神様に思い起こさせてくださるのです。

26 このような大祭司こそ、私たちが必要としていたお方です。彼はきよく、少しの欠点も罪のしみもなく、罪人によって汚されることもないからです。この大祭司のために、天では、名誉ある特別席が設けられているのです。 27 普通の祭司は、神様の前に出る時、まず自分の罪をきよめるために、そして人々の罪のために、毎日、動物のいけにえの血をささげる必要がありました。しかしキリスト様には、その必要が全くありません。なぜなら、十字架にかかって自分をいけにえとしてささげ、ただその一度の行為で、すべてを成し遂げてしまわれたからです。 28 古い祭司制度のもとでは、大祭司といえども、自らを悪から守ることのできない、罪ある弱い人間でした。しかし後に、神様は誓いをもって、自分のひとり息子という完全なお方を、永遠の大祭司に任命されたのです。

八

1 以上書いてきたことを要約すると、次のようになります。 私たちの大祭司はキリスト様であり、現在、天で、神様の次に名誉ある地位についておられます。 2 このお方は、人間の手によらず、主によって建てられた天の神殿で、祭司の仕事をしておられます。

3 大祭司の務めは、供え物といけにえとをささげることです。ですからキリスト様も、その務めをなさいます。 4 この方のいけにえは、地上の祭司たちがささげるいけにえより、はるかにまさっています。〔しかし、もしキリスト様が、今なお地上におられるとしたら、決して祭司にはなれなかったでしょう。この地上には、ユダヤ人の古いいけにえの制度を守る祭司がいるからです。〕 5 地上の祭司が奉仕する神殿は、天にある本物の神殿をまねて造ったものにすぎません。幕屋を建てようとしたモーセは、シナイ山で神様から指示を受け、天にある幕屋の型に寸分違わぬものを造るように、と警告されたからです。 6 しかし今、キリスト様は天における祭司として、古いおきてに従っている祭司たちより、はるかに重要な任務をゆだねられています。なぜなら、キリスト様が私たちに伝えてくださる神様の新しい契約には、さらにすばらしい約束が含まれているからです。

7 古い契約は、もはや無効になりました。もし効力があれば、別の新しい契約を立てる必要はなかったでしょう。8 しかし神様は、古い契約の欠陥を指摘して、次のように宣言されたのです。「わたしが、イスラエルやユダの人と、新しい契約を結ぶ日が来ます。9 この契約は、彼らの先祖の手を引いて、エジプトの地から導き出した日に与えた古い契約とは、全く異なるものです。彼らはそれを守らなかったで、わたしは無効にしなければなりませんでした。10 しかし、ここにわたしは、イスラエルの人と新しい契約を結びます。わたしはこのおきてを、彼らの心に刻みます。そうすれば、たとえ何も言わなくても、彼らに、わたしの思いが、はっきりわかるようになるのです。心の中におきてがあるので、彼らは喜んで従うようになるでしょう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるのです。11 その日にはだれも、友人や隣人、兄弟に向かって、『君も、主を知りなさい』と言う必要がなくなります。なぜなら、どんな人でも、わたしを知るようになるからです。12 わたしは、彼らの悪い行ないに対してあわれみを示し、その罪を二度と思い出しません。」

13 神様は古い契約に代えて、この新しい契約について語っておられます。古いものは今や時代遅れとなり、全くいらなくなったからです。

■

九

12 ところで、神様と人間との間に交わされた最初の契約にも、礼拝についての規定があり、そのために建てられた神聖な幕屋がありました。この幕屋には二つの部屋があり、第一の部屋は聖所と呼ばれ、金の燭台と、特別なきよいパンを載せる机が置いてありました。3 聖所の奥に、幕で仕切られた第二の部屋があつて、至聖所と呼ばれていました。4 至聖所には、金の香壇と、全面を純金でおおわれた契約の箱がありました。その箱には、「十戒」を記した二枚の石の板、マナを入れた金のつぼ、芽を出したアロンの杖が納めてあったのです。5 この箱の上には、ケルビム〔神の栄光の守護者たち〕と呼ばれる御使いの像があつて、黄金のふたをおおうように、大きな翼を広げていました。このふたは、「恵みの座」と呼ばれます。しかし、これ以上くわしく述べる必要はないでしょう。6 さて、これらが全部ととのえられた上で、祭司は必要があれば第一の部屋に出入りして、務めを果たしました。7 ただし、奥の第二の部屋には、大祭司だけが、年に一度だけ、一人で入って行きました。そのとき彼は、血を携えて行かなければなりません。その血は、彼と民全体があやまって犯した罪をきよめるための供え物として、「恵みの座」にふりかけられました。

8 聖霊様はこのことを通して、次のことを教えておられます。古い制度のもとでは、第一の部屋と、それに代表される、しきたりがあるかぎり、一般の人たちは至聖所に入ることができない、ということです。

9 これは、現在の私たちへの大切な教訓となっています。なぜなら、古い制度のもとでは、供え物といけにえが幾度ささげられても、それを携えて来る人たちの心まで、きよめ

ることはできないからです。 10つまり、古い制度は、飲み食いや、体の洗いきよめなどの、こまごました規則からなる、一定の儀式を取り扱っているにすぎないからです。 それでも人々は、キリスト様が、神様のもっとすぐれた新しい道をお示しになるまで、その規則に縛られていました。 11キリスト様は、すでに私たちのものとなった、この格段にすぐれた制度の大祭司として、来られました。 そして、人間やこの世の手を借りる必要の全くない、天にある、さらに偉大で完全な幕屋に入られました。 12しかも、ただ一度、血を携えて奥の至聖所に入り、それを「恵みの座」にふりかけました。 それも、やぎや子牛の血ではなく、自分の血をです。 この方は自らそうすることによって、私たちの永遠の救いを保証してくださいました。

13もし、古い制度のもとで、雄牛ややぎの血、あるいは若い雌牛の灰が、人々の体を罪からきよめることができるとすれば、 14ましてキリスト様の血は、どれほど確実に、私たちの心と生活を変えることでしょう。 キリストご自身のいけにえは、古い規則に縛られる悩みから、私たちを解放し、生ける神様にお仕えしたい気持ちに駆り立てるのです。 それは、不滅の方である聖霊様の助けによって、一つの罪も欠点もない完全なお方が、自分を喜んで神様にささげ、私たちの罪のために死んでくださったからです。 15キリスト様は、この新しい契約を携えて来られました。 それで、神様に招かれる人はみな、約束されたすばらしい祝福に、いつまでもあずかることができるのです。 なぜなら、古い制度のもとで犯した罪の刑罰から救い出すために、キリスト様は死んでくださったからです。

16さて、ある人が財産の相続人を指定し、遺言状を残して死んだとします。 しかしその被相続人の死が証明されなければ、だれもその財産に手出しできません。 17遺言は、被相続人の死後に、初めて有効になるのです。 その人が生きている間は、いくら、それが自分に関するものでも、どうにもなりません。

18そういうわけで、最初の契約も、効力を発揮するために、〔キリスト様の死の証拠として〕血がふりかけられなければなりませんでした。 19すなわち、モーセは、民に神様のおきてをことごとく語り聞かせてから、水と共に子牛とやぎの血を取り、ヒソプの枝と紅色の羊毛とにつけて、おきての書と民全体にふりかけました。 20そして、厳かに宣言しました。 「この血は、今や神様とみんなとの契約が、効力を発したしるしだ。 この契約は、神様が私に命じて、みんなとの間に立てられたものだ。」 21またモーセは、神聖な幕屋にも、礼拝用のすべての器具にも、同じように血をふりかけました。 22古い契約のもとで、すべてのものは、血をふりかけることによってきよめられた、と言えます。 血を流すことなしに、罪の赦しはありえないからです。

23それで、天上のものにかたどって造られた地上の神聖な幕屋とその中のすべてのものは、このようにモーセによって、すなわち、動物の血をふりかけることによって、きよめられる必要がありました。 しかし、その原型である天の本物の幕屋は、はるかにすぐれたいけにえによって、きよめられたのです。

24 キリスト様は、天にあるものの模型にすぎない、地上の神殿に入られたのではありません。天そのものに入れ、今は、私たちの友として、神様の前におられます。25 しかもこの方は、地上の大祭司が、毎年きまって動物の血を至聖所にささげたように、自分を何度もささげるようなことは、なさいませんでした。26 もしそうであれば、世の初めから、何度も死ななければならなかったでしょう。しかし、そうではありません。この方は、この時代の終わりに、死によって罪の力を永遠に無効とするため、ただ一度、おいでになったのです。

27 人間には、一度だけ死んで、その後さばきを受けることが定められているように、28 キリスト様も、多くの人の罪のためにご自身をささげて、一度だけ死なれました。そして、もう一度おいでになりますが、今度は罪を取り除くためではありません。その時の目的は、彼を熱心に、忍耐して待ち望んでいるすべての人に、完全な救いを与えることなのです。

一〇

1 ユダヤ人のおきてによる古い制度は、やがてキリスト様が与えてくださるもののすばらしさを、かすかに味わわせてくれるにすぎません。いけにえは、年ごとに何度もくり返されましたが、その制度下にある人たちを救えませんでした。2 もし救う力があるのなら、一度だけのいけにえで十分なはずであり、礼拝する人々はみなきよめられ、その罪意識も消えてしまったことでしょう。

3 ところが、事実は反対でした。年ごとのいけにえは、人々の心をなごませるどころか、かえって、不従順と罪とを思い起こさせたのです。4 雄牛とやぎの血では、実際に罪を取り除けないからです。

5 それゆえキリスト様は、この世に来られた時、次のように言われたのです。「神よ。雄牛や、やぎの血は、あなたの心にかないません。それで、わたしに肉の体を与え、祭壇の上のいけにえとなさいました。6 罪のためのささげ物として、あなたの前で殺されて焼かれる動物のいけにえでは、あなたは満足されませんでした。7 そこでわたしは、『まさに、聖書に書いてあるとおり、わたしはあなたの御心を行ない、いのちを捨てるためにまいりました』と申し上げたのです。」

8 すなわち、キリスト様は、古い制度が要求する、さまざまのいけにえやささげ物では、神様は満足されない、と語ったあとで、9 「わたしはいのちを捨てるために来ました」とつけ加えたのです。

キリスト様は、はるかにすぐれた制度を打ち立てるために、最初の制度を廃止されます。

10 この新しい計画にそって、ただ一度死なれ、それによって、私たちは罪を赦され、きよくされているのです。11 古い契約のもとでは、祭司たちは毎日、祭壇にいけにえをささげますが、それらは、決して罪を取り除くことができません。

12 しかしキリスト様は、いつまでも有効な、ただ一つのいけにえとして、私たちの罪のために、自分を神様にささげてくださり、そのあと、最も名誉ある神様の右の座について、

13 敵が足の下に踏みつけられる、その日を待っておられます。 14 キリスト様は、この一度かぎりの行為によって、ご自分がきよめる人々をみな、永遠に、神様の目からも完全なものとしてくださったのです。

15 聖霊様も同じ証言をなさいます。 16 「イスラエルの人たちは最初の契約を破りましたが、わたしが新たに彼らと結ぼうとしている契約は、これです。 わたしは、常にわたしの意志を知らせるために、おきてを彼らの心に書き記します。 そして、おきてを彼らの思いの中に据えるので、彼らは喜んでこれに従うようになります。」 17 さらに聖霊様は、こうも言われます。 「わたしは、二度と彼らの罪と不法行為を思い出しません。」

18 このように、罪が永久に赦され、また、忘れ去られてしまうなら、罪を取り除くためのいけにえを、これ以上ささげる必要はありません。 19 ですから、愛する皆さん。 今や私たちは、血を流されたイエス様のおかげで、神様のおられる至聖所に、堂々と入って行けるのです。 20 この新しいいのちに至る道は、キリスト様が、ご自分の体という幕を引き裂くことによって、切り開いてくださいました。 私たちはこの道を通して、きよい神様の前に進み出ることができるのです。

21 また、偉大な大祭司が神様の家を支配しておられるのですから、 22 私たちは、まちがいなく受け入れられるという確信と、真実な心をもって、神様の前にまっすぐ進み出ようではありませんか。 私たちの心は、キリスト様の血を注がれてきよめられ、体は、きよい水で洗われているのですから。

23 いま私たちは、神様が約束してくださった救いを、希望をいだいて待ち望むことができます。 今や私たちは、一点の疑いもなく、救いが確実であることを、だれにでも話せます。 神様のことばは、必ず実現するからです。

24 神様が成し遂げてくださった、すべてのことにこたえて、私たちも互いに助け合い、親切にし合い、善行に励もうではありませんか。

25 教会員としての義務を怠ったり、集会を休んだりする人たちにならってはいけません。 主が再びおいでになる日は、もう間近なのですから、互いに励まし合い、忠告し合いましょう。

26 もし罪の赦しの真理を知ってから、ことさらに救い主を拒否して、罪を犯し続ける人がいるとしたら、そんな罪は、キリスト様の死によっても赦されません。 もはや、そんな罪を消す方法は、どこにもないのです。 27 その人には、敵対する者を一人残らず焼き尽くす、神様の激しい怒りと恐ろしい刑罰が待っているだけです。 28 モーセのおきてに従わなかった者たちは、その罪に対する二、三人の証言が得られれば、容赦なく殺されました。 29 それならなおさら、神様のひとり息子を踏みつけ、罪をきよめるキリスト様の血を汚れたものとみなし、神様のあわれみを人々にもたらす聖霊様を侮辱し、はざかしめる者には、どんなに恐ろしい刑罰が下るか、胸に手をあて、よく考えてみなさい。

30 私たちは、「正義はわたしのものである。 復讐はわたしがする」、また「主がその民をさばかれる」と断言された方を、よく知っています。 31 生ける神の御手に陥ること

は、なんと恐ろしいことでしょう。

32 初めてキリスト様を知ったころの、祝福されたすばらしい日々を、いつまでも忘れないようにしなさい。 また、死ぬほどの苦しみに会いながらも、主と共に戦い抜いてきた事実を、いつも心にとめていなさい。 33 時には、あなたがた自身があざけられたり、打ちのめされたりもしました。 また時には、同じ苦しみをなめている人たちに、心からの同情を寄せたりしました。 34 牢獄に捕らわれの身となった人たちと共に苦しみ、また全財産を奪われても、喜んで、それを耐え抜いた日々もありました。 その秘訣は、天にある、もっとすぐれたものを永遠に獲得できると、わかっていたからです。

35 このような、すばらしい祝福が待っているのですから、どんなことがあっても、主を信じ続けなさい。 やがて主から受ける報酬を、いつも思い起こしなさい。 36 神様の約束されたものを、そっくりいただきたいと願うなら、神様の御心を、忍耐強く実行しなければなりません。 37 キリスト様のおいでになる日が、これ以上遅れることはありません。 38 信仰によって、神様の前に正しいと認められた人たちは、どんなことでも主を信じ、信仰によって生きなければなりません。 しりごみするような人を、神様は喜ばれません。

39 しかし私たちは、神様に背を向けたり、みじめな結果を見たりしたことは、これまで一度もありませんでした。 かえって、神様を信じる信仰が、たましいの救いを確実にしてくれるのです。

――

1 信仰を、どう定義したらよいでしょう。 それは、願い事が必ずかなえられるという、不動の確信です。 また、何が起こるか分からない行く手にも、望みどおりのことが必ず待ち受けていると信じて、疑わないことです。 2 神様を信じた昔の人たちは、この信仰で名高いのです。

3 信仰によって、すなわち神様を信じることによって、私たちは、この世界と天体のすべてが神様のことばによって造られ、しかもそれらはみな、無から創造されたことを知のです。

4 アベルが神様の命令に従い、カインより、はるかに神様に喜ばれる供え物をささげたのは、信仰があったからです。 アベルの供え物が喜ばれたのは、神様が彼を受け入れてくださったことの証明にほかなりません。 アベルは、はるか昔に死にましたが、今なお彼から、神様への信頼について、多くの教訓を学べます。

5 エノクも、神様に信頼しました。 それで神様は、死を経験させずに、彼を、天に引き上げてくださいました。 神様が連れ去ったので、彼は、突然、姿を消したのです。 神様は、ご自分がどんなにエノクを大切に思っているかを、前々から告げておられました。

6 信仰がなければ、神様に喜ばれることはできません。 神様のもとに来ようとする人はだれでも、神様の存在と、熱心に神様を求めれば必ず報いられることとを、信じなければなりません。

7 ノアも、神様を信じた人です。 将来の出来事について、神様から警告を受けた時、洪水のきざしなど何一つなかったにもかかわらず、そのことばを信じました。 そして、時をむだにせず、すぐに箱舟の建造に取りかかり、家族を洪水から救いました。 神様を信じたノアの態度は、当時の人たちの罪や不信仰と比べて、ひとときわ輝いています。 この信仰のゆえに、ノアは、神様に受け入れられたのです。

8 アブラハムは神様を信じました。 ですから神様に、生まれ故郷を離れて、新しく与えられる地に向かうようにと指示された時、そのことばに従いました。 彼は、行く先も知らずに出て行ったのです。 9 そして、神様の約束された地に入ったあとも、外国からの旅行者のように、天幕生活を送りました。 神様から同じ約束を受けた息子のイサクと孫のヤコブも、この地で、同様に天幕生活を送りました。 10 アブラハムがこうした生活に耐えられたのは、揺るがぬ土台を基とした天の都に、神様は必ず連れて行ってくださると確信して、待ち望んでいたからです。 その天の都を設計し、建設されたのは、神ご自身にほかなりません。

11 アブラハムの妻サラの信仰も、すばらしいものでした。 サラはすでに年老いていたにもかかわらず、母親になることができました。 神様の約束は必ず実現すると、堅く信じていたからです。 12 このようにして、年を取りすぎ、子供を生むことなど、全く絶望と思われていたアブラハムから、天の星や海辺の砂のように、数えきれないほどの子孫が生まれたのです。

13 信仰に生きたこの人たちは、神様が約束されたものを手にしてから、死んだのではありません。 しかし彼らは、約束のものが待ち受けているのを見て、心から喜びました。 この地上がほんとうの故郷ではなく、自分がほんのつかの間、ここに滞在する旅人にすぎないことを、自覚していたのです。 14 そう認めた時、彼らは心から、天にある故郷を慕い求めました。

15 もし彼らに、この世の魅力ある生活に帰る気があったら、いつでも帰れました。 16 しかし彼らは、そんなものには目もくれず、神様が用意された天の都を一心に見つめて生活しました。 それで神様は、彼らの神と呼ばれることを誇りとされたのです。

17 神様がアブラハムの信仰を試された時にも、アブラハムは最後まで、神様とその約束とを信じました。 彼は、息子のイサクを神様にささげ、祭壇の上で殺そうとまでしたのです。 18 そうです。 まさにアブラハムは、イサクに刀を振りおろそうとしたのです。 このイサクを通して一つの国民となる子孫を与えるという、神様の約束があったにもかかわらず、少しもためらいませんでした。 19 たといイサクが死んでも、神様はもう一度生き返らせてくださると信じていたのです。 まさに、そのとおりのことが起こりました。 イサクは確かに死ぬ運命にあったのに、生きたまま、再びアブラハムの手に戻されたのです。 20 イサクが二人の息子ヤコブとエサウに、神様が将来、必ず祝福を与えてくださると確信したのも、信仰によることでした。

21 年がい、死を目前にしたヤコブは、信仰によって、杖にすがりながら立ち、神様に祈

りをささげました。そして、息子ヨセフの二人の子を、かわるがわる祝福しました。

22 死期が迫ったと感じたヨセフは、信仰によって、神様がイスラエルの人たちをエジプトから脱出させてくださることを、確信に満ちて語りました。それを信じきっていた彼は、エジプト脱出の際に、自分の骨をも携えて行くことを約束させました。

23 モーセの両親も信仰者でした。優秀な子供が授けられたことを知った彼らは、神様がエジプト王の手から、その子を救い出してくださると信じました。それで、子供を殺せという王の命令にもひるまず、その子を、三か月のあいだ隠しておいたのです。

24 25 信仰によって、モーセは成人した時、王子として扱われることを拒みました。むなしい罪の快樂にふけるよりは、神の民と共に苦しむ道を選んだのです。26 彼は、エジプト全土の宝をわがものにするよりも、やがて来ると約束されていたキリスト様のために苦しむほうが、はるかにすぐれていると考えました。その目は、神様からの大きな報いに注がれていたのです。27 神様を信じていた彼は、王の怒りをも恐れず、エジプトの地をあとにしました。わき目もふらずに、まるで、いっしょに歩まれる神様の姿を見ているかのように、前進しました。28 信仰によって、モーセは神様の指示どおり、人々に小羊を殺させ、その血を家々の門柱に注ぎかけました。こうして、その家の長子は、神様から遣わされた恐ろしい死の使いから守られました。しかしエジプト人の長子は、この死の使いによって全滅したのです。

29 イスラエルの人たちは、神様を信じて、紅海を、まるで、かわいた陸地を歩むように、まっすぐ渡りました。しかし、追跡して来たエジプト人は、続いて渡ろうとして、一人残らずおぼれ死んだのです。

30 信仰によって、イスラエル人が、神様の命令どおり、七日間エリコの町の城壁を回ると、城壁はくずれ落ちました。31 売春婦ラハブは、神様とその力を信じていたので、イスラエルのスパイを、自分の家にかくまいました。その信仰によって、彼女は、神様への服従を拒んだエリコの住民が滅ぼされた時にも、救い出されたのです。

32 これ以上、何をつけ加える必要があるでしょう。ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、そのほかの多くの預言者の信仰について話し始めたら、いくら時間があっても足りません。33 彼らはみな、神様を信じました。その信仰によって、戦いに勝ち、国々を征服し、正義の政治を行ない、神様が約束されたものを受け取ることができました。ライオンの穴に投げ込まれても危害を受けず、34 燃えさかる炉に投げ込まれても、やけど一つしませんでした。ある人は、危うく刀で切り殺されるところを救われました。ある人は病弱の身であったのに、健康な体に変えられました。ある人は、戦いでめざましい力を与えられ、攻め寄せる敵の軍隊をことごとく退散させ、大勝利を収めました。35 また中には、信仰によって、愛する者を死人の中から生き返らせていただいた女たちもいました。また、さらにすぐれたいのちに復活するために、釈放など願わず、むち打ちや、死刑に甘んじた人たちもいました。彼らは、神様を捨てて自由の身となるよりも、むしろ死を望んだのです。

36 またある人たちは、あざけられ、むち打たれ、さらに鎖につながれ、投獄されました。
37 38 また石を投げつけられたり、のこぎりで真っ二つにされたりして死ぬ人もいました。 また、信仰を捨てて自由になるより、刀で切り殺されることを選んだ人、羊や、やぎの皮を着て荒野や山をさまよい、穴や洞窟に隠れた人もいます。 彼らは飢えと病気に悩まされ、苦しめられ、ひどい仕打ちを受けました。——彼らが正しい生き方を追求したからです。 39 神様を信じた彼らのすばらしい信仰は、神様から賞賛されるほどでした。ところが、だれ一人、神様が約束されたものを全部、手に入れたわけではありません。 40 彼らが待ち望んでいたのは、もっとすぐれた報いであり、神様も、やがて、それを与えるつもりでした。 それは、神様が今、私たちのために用意しておられる報いと同じです。
一二

1 このように、数えきれないほどの信仰の勇者が、競技場の正面観覧席で、私たちの競技を見つめているのです。 だから、スピードを落とさせたり、うしろへ引き戻そうとする力に目を光らせなさい。特に、足にうるさくまつわりついて、つまずかせようとする罪をふり捨てなさい。 そして、神様の用意された特別のコースを、忍耐して走り抜こうではありませんか。

2 私たちの指導者であり教師であるイエス様から、目を離さないようにしなさい。 イエス様は十字架の死のあとの喜びを知って、恥をもいとわず十字架にかかられました。 そして今は、神様の王座の隣、名誉ある座についておられるのです。 3 気力を失い、弱り果てることのないように、いつも、罪人の恐ろしい仕打ちを忍ばれた、イエス様のことを思っていなさい。 4 あなたがたは、罪や誘惑と戦っています。 けれどもまだ、血を流すほどのきびしい戦いを、経験したことはありません。 5 その上、あなたがたは、神様の激励のことばを、すっかり忘れてはいませんか。 神様は、こう声をかけてくださるのです。

「わたしの子よ。

主に懲らしめられて、腹を立ててはなりません。

主にあやまちを指摘されて、気落ちしてはなりません。

6 主が懲らしめるのは、あなたが憎いからではなく、
あなたを愛しているからです。

主がむち打つのは、

あなたが真に神の子供だからです。」

7 進んで神様の訓練を受けなさい。 神様は、父親として当然のことを、子供のあなたがたに、しておられるのです。 父親から一度も懲らしめを受けたことのない子供が、どこにいるのでしょうか。 8 神様は、ほんとうの子どもであればこそ、必要に応じて懲らしめるのです。 もしそうでなければ、あなたがたは、ほんとうは神様の家族でないことになります。 9 この世では父親が子供を罰しても、子供から尊敬されなくなるようなことはありません。 だとしたら、私たちは真に生きることを学ぶために、喜んで神様の訓練を

受けるべきではないでしょうか。

10 肉親の父親は、私たちの将来のために、ほんの短い間だけ、それも、限られた知識に基づいて、訓練してくれます。ところが神様は、私たちの最善を願って、神様のきよさを共有させようと、いつも、正当な懲らしめを与えてくださるのです。11 罰を受けた当初は、だれも気持ちがいいはずはなく、むしろ、傷つけられたと感じるものです。しかしあとになれば、それが自分の益となり、信仰の面でも、性格の面でも、プラスとなっていることが、わかるのです。

12 ですから、弱った手をしっかり握りしめ、震えるひざをまっすぐにして、立ち上がりなさい。13 そして、自分の前に、まっすぐで平らな道を切り開きなさい。そうすれば、あとに続く人たちが、たとい弱くて足が不自由でも、倒れたり、けがをしったりせず、かえって、丈夫になるでしょう。

14 争いは努めて避け、きよい生活を追い求めなさい。きよくない人は主を見ることができないからです。15 あなたがたのうちのだれも、神様の最高の祝福を見失わないように、互いに注意し合いなさい。あなたがたの間に、苦々しい思いの根がはびこらないように、十分に警戒しなさい。その根から出た芽は悩みの花を咲かせ、大ぜいの人の信仰生活に、害を及ぼすからです。16 まただれも、性的な罪にのめり込んだり、エサウのように神様に無関心にならないように、よく注意しなさい。エサウは、ただ一度の食事のために、神様の祝福のしるしである、長子の権利を売りました。17 あとになって、後悔し、涙ながらにその権利を取り戻したいと願いましたが、遅すぎたのです。このことを、決して忘れないようにしなさい。

18 あなたがたは、イスラエルの人たちが、シナイ山で神様からおきてを授けられた時のように、恐怖、燃える火、黒雲、暗やみ、たけり狂う嵐に、面と向かう必要はありません。

19 そこでは、すさまじいラッパの音が響き、また神様の声がとどろきました。それを聞いた人たちは、あまりの恐ろしさに、それ以上何もお語りにならないでくださいと、必死に頼んだのです。20 彼らは、「たとい動物でも、山に触れるものは殺されなければならない」という神様の命令におびえ、あとずさりしました。21 モーセさえ、この光景を目のあたりにして、恐怖に震えおののいたのです。

22 しかしあなたがたは、シオンの山に近づいているのです。そこは生ける神の都、天にあるエルサレムであり、無数の御使いたちが楽しげに集う所です。23 またあなたがたは、天に登録されている人たちの教会、すべてをさばく神様、すでに完全なものとされて天にいる、救われた者たちの霊に近づいているのです。24 またさらに、新しい契約をもたらしたイエスご自身、復讐を叫ぶアベルの血ではなく、恵みに満ちた罪の赦しを与える血に、近づいているのです。

25 そこで、あなたがたに語りかけてくださる方に、ぜひとも、聞き従いなさい。イスラエルの人たちにとって、指導者モーセに従うことを拒んだ時、さばきは決定的なものとなりました。ましてや、天からの神様の声を拒む時、どんなに恐ろしい罰が下ることで

しょう。 26 シナイ山から語られた神様の声は、大地を揺り動かしました。 しかし、「今度は地だけでなく、天をも揺り動かす」と、神様は宣言しておられます。 27 つまり、土台の弱いものをすべてふるいにかけて、決して動じないものだけを、残そうとしておられるのです。

28 私たちは、何もののにも滅ぼされない御国を与えられているのですから、感謝の思いと、きよい恐れとをい দিয়ে 仕え、神様をお喜ばせしようではありませんか。 29 神様は、すべてを焼きつくす火だからです。

一三

1 真実の兄弟愛をもって、愛し合いなさい。 2 よそから来た人を、親切にもてなしなさい。 中には、そうして、気づかないうちに御使いをもてなした人もいます。 3 獄中にある人たちのことを忘れてはいけません。 その境遇を思っ て、同じ気持ちになり、苦しみを共に分け合いなさい。 また、しいたげられている人たちの悲しみを、思いやりなさい。 あなたがたは、その苦しみがどんなものか経験ずみなのですから。

4 結婚とその誓約を尊びなさい。 純潔を保ちなさい。 神様は不品行な者、姦淫する者を、まちがいなく、さばかれるからです。

5 お金を愛する心を捨て、現在、与えられているもので満足しなさい。 神様は、こう約束しておられるからです。 「わたしはどんな場合にも、あなたの期待にそむかず、あなたを見捨てない。」 6 ですから、私たちは確信をもって、こう答えることができます。「主は私を助けてくださいます。 だから、何もこわくありません。 ただの人間が、私にどんな手出しができませんしょう。」

7 神様のことばを教えてくれた指導者たちのことを、思い出しなさい。 その生活からにじみ出た、すべての良いものに心をとめなさい。 そして、彼らに見ならって、主を信じなさい。

8 イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません。 9 ですから、いろいろの珍しい教えに心を奪われてはなりません。 あなたがたの霊的な力は、神様からの贈り物であって、ある特定の物を食べる、儀式上の規則によって得られるものではありません。 そのような規則は、たとえ厳守しても、その人を助けてくれません。

10 私たちには、キリスト様がいけにえとなられた十字架という祭壇があります。 ユダヤ人のおきてにしがみついて、救いを見いだそうとする人は、この祭壇から助けを受けることはできません。 11 ユダヤ人のおきてによると、大祭司は罪のためのいけにえとして、殺された動物の血を携えて聖所に入りますが、動物の体は、町の外で焼かれることになっています。 12 イエス様も、町の外で苦しみを受けて死なれました。 この、町の外で流された血によって、私たちの罪は洗いきよめられたのです。

13 だから私たちは、町の外に出て〔この世の人たちの関心事をあとにし、人々からさげすまれることも覚悟して〕、キリスト様のはずかしめを身に受け、共に苦しむために、この方のもとに行こうではありませんか。 14 この世は、私たちの住む所ではなく、私たち

は、天にある永遠の住まいを待ち望んでいるからです。

15 イエス様に助けられながら、神様のすばらしい御名を宣べ伝えることによって、常に、賛美の供え物をささげましょう。 16 いつも、良い行ないをすることと、困っている人たちに持ち物を分けることとを心がけなさい。 神様はこのような供え物を、とても喜んでくださるのです。

17 教会の指導者たちに服従し、喜んでその教えを実行しなさい。彼らの職務は、あなたがたのたましいを見守ることだからです。 しかも彼らは、この役目をどれだけ忠実に果たしたか、神様に報告する義務があるのです。 彼らが、悲しみながらではなく、喜んで報告できるようにしてやりなさい。 そうするのが、あなたがたの身のためでもあるのです。 18 私たちのために祈ってください。 私たちの良心は純粋であり、いつもそうありたいと願っているからです。 19 そして今は、できるだけ早くあなたがたのところへ帰れるように、特に祈ってほしいのです。

20 21 偉大な羊飼いである主イエス様を、死人の中から復活させてくださった平和の神様が、どうか、あなたがたに、神様の意志にそった行ないをするのに必要な、すべてのものを満たしてくださいように。 神様とあなたがたとの間に立てられた永遠の契約の血によって、このことが可能となりますように。 また、キリスト様の力によって、主に喜ばれるものだけを、あなたがたのうちに造り出してくださいように。 どうか、キリスト様に、栄光がいつまでもありますように。 アーメン。

22 皆さん。 私がこの手紙で語ってきたことを、どうか忍耐して聞いてください。 これは要点だけを手短かに書いたものです。 23 なお、同志テモテが、牢獄から釈放されました。 もし彼が早く来れば、いっしょにあなたがたを訪問できるでしょう。 24 あなたがたの指導者たち、またクリスチャンの皆さんに、よろしく伝えてください。 私といっしょにいるイタリアのクリスチャンも、よろしくと言っています。 25 神様の恵みが、あなたがたと共にありますように。

敬具

■